

大和源氏の歴史を辿る

宇野元首相の案内も務めた阪口さんらと共に歩む

三津ヶ峰城 五條市宇野町

五條市宇野町にある三津ヶ峰城(宇野城、別所城、小島城)は、源氏の一門で、周辺を治めていた宇野氏の城。近くには大和源氏の家紋「笹電胆(ささりんどこ)」が刻まれ山中にあった墓石を集めた「大和源氏宇野氏墓所」や、宇野氏の末裔で75代内閣総理大臣の故・宇野宗佑氏が立ち寄り寄進した宇野神社もある。大和源氏の歴史を研究し、宇野元首相の案内も務めた元教員の阪口仁平さん(92)、地域の人たちと共に城跡を歩いた。

源氏は56代天皇の清和天皇が祖。大和源氏はそこから4代下って河内源氏、摂津源氏と分かれ、大和守の源頼親(平安中期)を祖とし家臣らと共に五條市宇野町に居した。奈良市の興福寺や東大寺をはじめ、寺院との所領争いがあったとされている。その後、大和源氏の二門

は宇野氏を名乗るようになり、頼親の孫にあたる宇野頼俊が地域を流れる宇智川沿いに「宇野氏館城」を築き、一門の生活基盤を作った。またその子の頼治は、3つの山からなる三津ヶ峰城(宇野城、別所城、小島城)を築いたと伝わっている。

3つの城のうち本丸は別所城。阪口さんは「川沿いの館城に立て籠って戦えば、使用人やその他の家々に戦火が及ぶため『別のところで戦う城』という意味で別所城が築かれた」と説明する。

別所城へ向かう道には大きく曲がった細い「切通し」が作られ、現在も残っている**写真①**。この切通しでは、敵陣を一行にさせ城への侵入を難しくし、一気に弓矢もしくは刀で攻めようとする敵兵を崩したと考えられている。

阪口さんは「一族郎党の少ない戦力でも何百の敵兵と戦える城作りがされていたと思う。山や池、自然の形を考慮して、切通しを作るなど、そこに人の手を加えて『難攻



④もある。総理就任前大臣時代に一門のふるさとに立ち寄り、阪口さんが案内した。

本丸の別所城の頂上まで足を伸ばすと、大和源氏の祖とされる源頼親の墓がある。この周辺からは大小さまざまな墓石が出土しており、これら墓石**写真⑤**は現在、「大和源氏宇野氏墓所」に集められ、供養されている。阪口さんは「地域にどんな歴史があって、どのような工夫や知恵で土地が拓かれてきたのかをできるだけ多くの方に伝えていきたい」と語る。

がこの地を選び、居した理由は地形に大きな理由があったのではないかと考えている。本丸の別所城の山裾には宇野神社がある。地域に伝わる歴史や、伝承をしたことを記す碑**写真②**

宇野氏の一派は江戸時代、江川氏と改姓して伊豆(静岡県)に移住。代々伊豆荏山代官を務め、世界遺産登録された「明治日本の産業革命遺産製鉄・製鋼・造船・石炭産業」のうちの一つ「荏山反射炉」を手掛けた江川英龍へと一族の知恵は受け継がれた。

大和源氏宇野氏墓所や宇野神社など



感動のそばに、いつも。